

## 環境教育の現場から <その3>

### ホールアース自然学校

#### エコツーリズムについて

エコツーリズムは、エコロジーとツーリズムを組み合わせた造語であるとされている。現状ではエコツーリズムに関する定義は確立した統一されたものがなく、立場や国によって大きく異なっている。これはエコツーリズムとの関わり方やスタンスの違いにより、その推進によって何を指すのかという目的に対して、重点の置き方が異なることによる。さまざまな定義があるにせよ、『エコ』を冠していることからわかるように、エコツーリズムは単なる観光ではなく、自然資源等の生態的要素が核となっていて、資源の保全とその持続的な利用が重要な基盤となっている。

#### ホールアース自然学校とエコツーリズム

ホールアース自然学校（以下、WENS）は、富士宮市に拠点を置く法人組織であり、さまざまな自然体験プログラムの提供や一般・企業向けの環境教育等を通して、「人・自然・地域の共生する暮らし」の実践による日本型自然観の回復を目指している。

主な活動内容としては、富士山麓の広大なフィールドを活かした富士登山や火口トレッキング、洞窟探検等のエコツアーや、農作業体験等を通して日常の暮らしや生き方等のライフスタイルを見直し、変えていくためのプログラムも実施している。WENSは、エコツアー実施の際のガイド料収入等を組織運営の基盤とし、活動の持続性をはかっている。

#### インタープリター（ガイド）の役割

エコツアーには「インタープリター」と呼ばれるガイドが同行する。WENSは30数名のインタープリターを有し、エコツアーや自然体験をより楽しく、実り多いものにしていく。インタープリターの説明が参加者の気づきにつながり、より理解を深め

たり、エコツアーの質を向上させていく。WENSによれば、インタープリターの重要な役割の一つは、『見えるものを通して、見えないものを伝える』ことである。たとえば、フクロウの羽根から動物の進化のすごさを伝えたり、さまざまな種類の落葉から日本特有の色の文化の深さに気づかせる。そのためには、実用的で魅力的な教材作りも必要であるし、メッセージが伝わりやすいような雰囲気や「場」を作る能力も求められる。また農業体験では、受入れ先になってくれる地域の人たちとの関係作りも、インタープリターの重要な仕事の一つである。

#### エコツアーと環境教育

ビジネスとしての側面から見たエコツアーや自然体験では、参加者により大きな感動を与えられるような、質の高い内容を提供することが収益の確保につながる。一方、環境教育という側面からエコツアーを見た場合、単に体験を楽しむだけではなく、体験を通じた気づきや啓発がより重視され、さらにはそこから触発された行動変容に至ることも期待される。

WENSでは、エコツアーの中に自然保護の活動自体を取り込んで、気づきや啓発にとどまらずに行動に結びつけるような試みも行っている。たとえばボランティア活動として、竹林整備や里山の保全を行い、地域の自然環境を守るための活動等がある。また農業体験では、地元農家の協力を得て、田植え～除草～稲刈りを行い、収穫後には稲わらを使った工作教室等も開いている。こうした農作業に関連した一連のストーリーを作って参加してもらうことが、リピーター確保の仕組みにもなっている。

ビジネス指向であれ、環境教育指向であれ、いずれの場合も、目指すものが違っても体験の質の向上が重要であることは共通しており、それが活動の持続性にもつながっていくものと考えられる。



ホールアース自然学校の富士宮本校



さまざまな種類の落葉で教材作り



農業体験やボランティア体験のサイト